

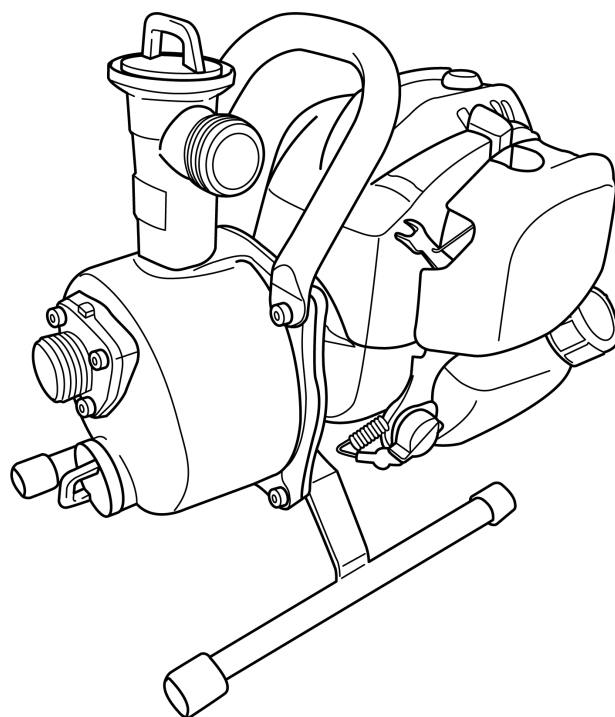


取扱説明書 灌水ポンプ

BP2541H

注意

- 出荷時、エンジンオイルは入っていません。
エンジンを始動する前に必ずエンジンオイルを入れてください。エンジンオイルの入れ方は別冊のエンジン取扱説明書を参照ください。
- 燃料は必ず自動車用ガソリンのみで使用してください。
2サイクルエンジン用の混合燃料を使用するとエンジン故障の原因になります。



目次

1. はじめに	1	6. 主要諸元	8
2. ▲ 安全に作業するために	2	7. 取扱および操作のしかた	9
3. 各部のなまえと操作部のはたらき	5	8. 清掃と点検・整備	17
4. 警告ラベルの取扱い	5	9. 長期保管	18
5. 付属品	6	10. ポンプの故障診断と処置	19
		11. エンジンの故障診断と処置	20

▲ ご使用になる前に必ずお読みください。

まずはじめに ▲ 安全に作業するために をお読みください。

1. はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、安全で快適な作業を行っていただくために、製品の正しい取扱方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

ご使用の前によくお読みいただいて充分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮出来るように本書をご活用ください。

また、お読みになったあと必ず大切に保管し、わからないことがあったときには取り出してお読みください。なお、製品の仕様変更などによりお買い上げの製品と本書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

本製品についてお気付きの点がございましたら、最寄りの取扱店、または当社の営業所にお問い合わせください。

- 取扱説明書は大切に保管してください。
- 紛失した場合は最寄の取扱店にてお買い求めください。
- 本製品を改造することは、安全で快適な作業に支障をきたすだけでなく、大変危険ですのでおやめください。

■使用目的

本製品は灌水を目的とした製品です。この目的範囲外の使用が原因での事故、および分解を行い、それに伴って生じた事故に関して一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■注意表示について

この取扱説明書では、とくに重要と考えられる取扱上の注意事項について次のように表示しています。

- ⚠ **危険**…もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるもの。
- ⚠ **警告**…その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるもの。
- ⚠ **注意**…その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。
- 注意**…その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性があるもの。

■この製品を他人に貸すとき、運転させるとき

事前に運転の仕方を教え、機械に貼ってある ⚠ (安全注意マーク) 印の付いている警告ラベルを1枚ずつ説明してください。

この製品と一緒にこの取扱説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を会得してから作業するように指導してください。とくに禁止事項については念を入れて説明してください。ご家族に運転させるときも同様に説明してください。

自分が使用するつもりで!



2. ⚠ 安全に作業するために

(1) 作業前の注意

こんな人は、作業してはいけません

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人
- 酒気を帯びた人
- 妊娠している人

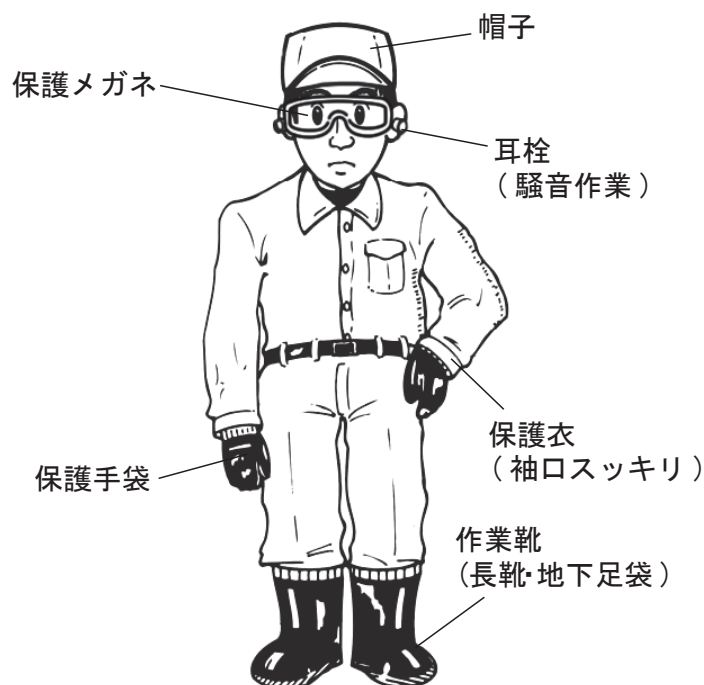
⚠ 警告

体内にてペースメーカーを使用している人は潜水ポンプを使用しないでください。
ペースメーカーが誤作動をおこす可能性があります。



服装は、作業に適していますか？

正しい服装の一例



⚠ 警告

- ・ 保護具は、常に正常な機能を有するように点検・整備を行い、正しく使用してください。
- ・ 騒音が大きい場合はイヤーマフまたは耳栓を着用してください。
- ・ 作業領域には作業員以外の人を近づけないでください。

(2) 使用時の注意

使用用途

- 水田、畑地、果樹園などへの灌水
- スプリンクラー散水
- 一般排水、土木排水
- 作業機などの洗浄

(使用液は清水、地下水、河川の水、用水路の水を使用してください。農薬、化学薬品、温泉水での使用はお止めください。)

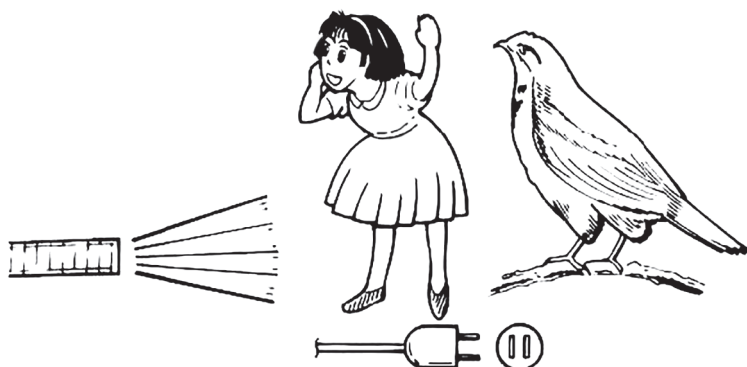
ポンプについて

- 吐出口からは多量の水が吐き出されますので、人や動物に向かって吐出さないでください。
- 運転中は本機から離れたりせず、またむやみに本機に人を近づけないでください。
- 図のような使用は危険です。行わないでください。

禁 止



農薬・化学薬品・温泉水などは使用しないでください。



人や動物、コンセントなどに向けて吐出さないでください。

エンジンについて

危険

- 燃料は可燃物です。運転の場所に火気は近づけないでください。
- 燃料の補給や手入れをする時は、タバコなどの火気を近づけないでください。

警告

- 燃料の補給はエンジンを必ず停止し、冷えてから行ってください。こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
- 給油した場所から3 m以上離れたところで、エンジンを始動してください。
- エンジン周囲1 mに壁や障害物・可燃物などのない平地で運転してください。
- 燃料を基準容量以上補給しないでください。また、激しい振動を与えたり本機を傾けたりしないでください。
- エンジンの排気ガスは有毒です。閉め切った室内での運転は一酸化炭素中毒を起こす恐れがありますので、おやめください。また、吸込まないように注意してください。

注意

- エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラ・シリンダフィンなどに手を触れると、火傷をする恐れがあります。
また、エンジンが冷えるまで、各部の点検・整備・清掃は行わないでください。
- エンジン運転中のプラグには高電圧が通っています。電気ショックを受けますので、運転中は絶対にプラグやプラグコードに手を触れないでください。
- 運転中に燃料がもれている場合は火災になるので、ただちにエンジンを停止して修理してください。
- 機械に異常（異常音、異常振動、不具合）を感じた時は、ただちに作業を中止して修理してください。
- エンジンはエンジン取扱説明書を読み、それに従ってください。

注意

- エンジンは出荷時にオイルが入っていません。使用前に必ずオイルを入れてください。
- エンジンオイルは使用前に必ず確認してください。オイルが劣化し、エンジンの故障の原因となります。

警告

以下の項目を必ず守ってください。火災になるおそれがあります。

- 作業を中断するときは、エンジンを停止してください。
- エンジンは停止直後も高温ですので、可燃物のない場所に置いてください。
- 排気ガスの方向にある枯れ枝・枯葉などの可燃物を取り除いてから作業してください。
排気ガスは高温です。排気ガスの方向に可燃物があると、火災のおそれがあります。

3. 各部のなまえと操作部のはたらき

ハンドル

本機を持つために使用します

エンジン

給水口キャップ(プラグ)

取り外してポンプ内に呼び水を入れます

吸水口(スイコミグチ)

吸水ホースを取り付けます

ラベル

製品名称記載

ドレンキャップ(プラグ)

ポンプ内の水を抜きます

吐出口

吐出ホースを取り付けます

エンジン回転調整レバー

燃料タンク

燃料を入れます

警告ラベル

部品番号 284296

エンジンスイッチ

エンジンを始動・停止させるときに使用します

4. 警告ラベルの取扱い

⚠ 注意

- 警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷した時は必ず新しいラベルと交換し、同じ場所に貼ってください。
- 警告ラベルが貼ってある部分を交換したときは、その部分にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。

※本製品には、次の警告ラベルが貼ってあります。

下記にその内容を記載してありますので、よく読んでその意味を充分理解した上で、表示内容を守って作業してください。

部品番号 284296



安全に作業するために
取扱説明書をよく読んで
機械の使い方を覚えてから
使用すること。

284296

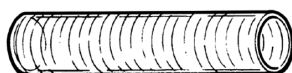
1. 空運転禁止
ポンプ内に水を入れてから始動してください。
2. 凍結防止
凍結のおそれのある場合は使用後ポンプ内の水をぬいてください。

5. 付属品

●本機および付属品を点検して、損傷や欠品等がありましたら、すぐにご購入になりました販売店にご連絡ください。

ご購入から1ヶ月以上経過してのお申し出には、応じかねることがあります。

吸水ホース(Φ25×3m)



×1 P/N 240027

ホースメネジナット



×2 P/N 272283

ゴムマルパッキン



×2 P/N 240859

ホースメネジ中芯(25mm)



×2 P/N 240858

ホースメネジ中芯(19mm)



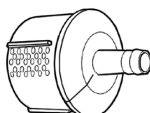
×1 P/N 240860

ホースメネジ中芯(16mm)



×1 P/N 240861

ストレーナ



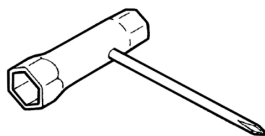
×1 P/N 284300

ホースバンド(25mm)



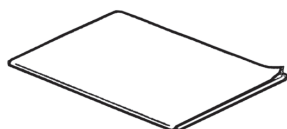
×3 P/N 284301

コンビボックススパナ



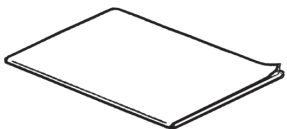
×1 P/N 222400

取扱説明書



× 1 P/N 247545

取扱説明書(エンジン)



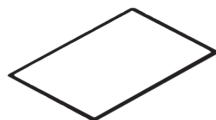
× 1

六角棒スパナ(4mm)



× 1 P/N 219432

保証書



× 1

●吐出ホースはオプション（別売り）となっています。
ホースご購入の際は、本製品をお買い求めになった販売店にご用命ください。

オプション部品

洗車ホース(ホースセット)



× 1 P/N 286787

洗車ノズル



× 1 P/N 286786

6. 主要諸元

名 称		BP2541H
本 機	寸 法 (長 × 幅 × 高) mm	346×234×310
	乾 燥 質 量 kg	5.6
	吸 水 ・ 吐 出 口 径 mm	25(1in.)
	最 大 吐 出 量 ℓ/分	115
	最 大 全 揚 程 m	36
	定 格 出 力 運 転 時 間	*1H
エ ン ジ ン	名 称	ホンダ GX25
	型 式	空冷4サイクルガソリン
	排 気 量 cm ³ (cc)	25
	使 用 燃 料	自動車用ガソリン
	エ ン ジ ン オ イ ル (4サイクルガソリンエンジンオイル)	ホンダ純正ウルトラU汎用 (SAE10W-30) またはAPI分類SE級以上相当のSAE10W-30オイル
	潤 滑 油 容 量 ℓ	0.08
	燃 料 タ ン ク 容 量 ℓ	0.54
	点 火 方 法	トランジスター式マグネトー点火
	始 動 方 法	リコイル式
	定 格 出 力	0.72 kW/ 7000 rpm

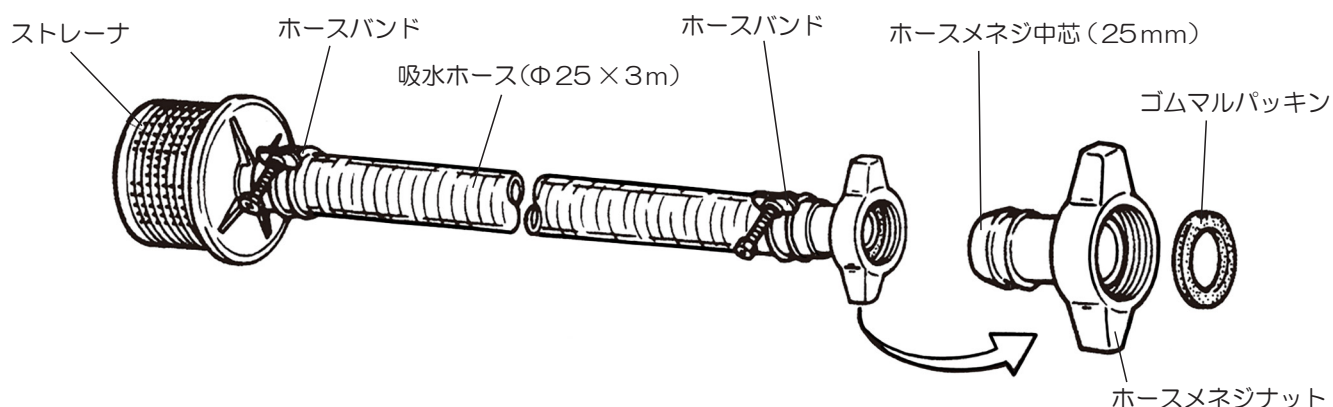
* 運転状態によって、運転時間は変化します。

● 改良のため、予告なく仕様を変更することがあります。

7. 取扱および操作のしかた

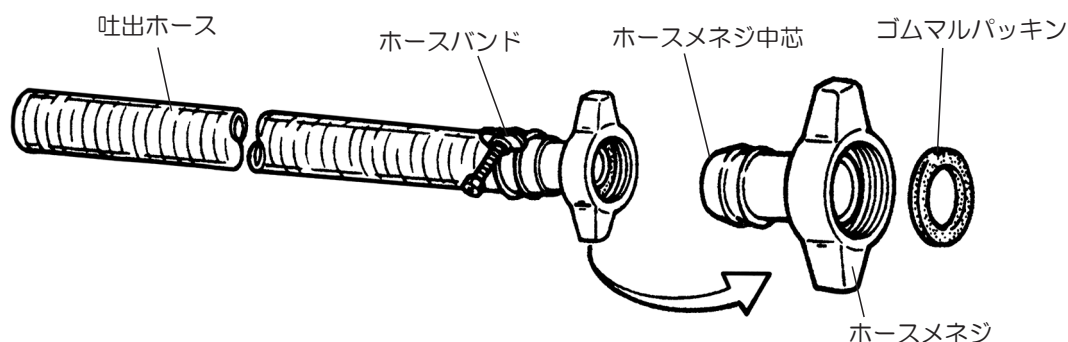
(1) ホースの組立

1) 吸水ホースの組立



- 注意** ● 吸水ホースには負圧がかかります。つぶれないホースを使用してください。
● 吸水ホースのポンプ接続側にはホースメネジ中芯を組み付けてください。

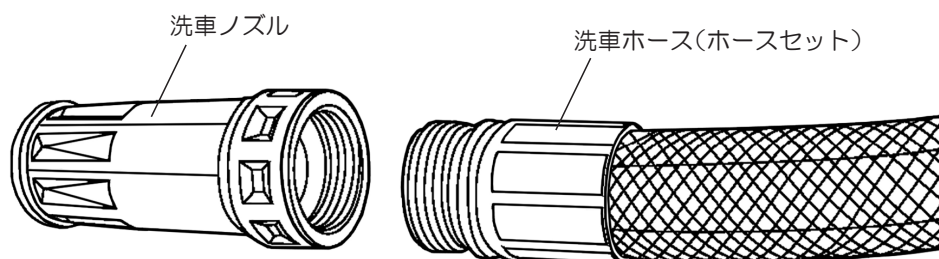
2) 吐出ホースの組立



- 吐出ホースは付属品となっておりませんので、必要に応じて販売店へお問合せください。
● 吐出ホースのポンプ接続側には、ご使用になる吐出ホース径に合わせ付属のホースメネジ中芯 (25mm、19mm、16mm) を選び、組み付けてください。

※上記の取付方法が推奨です

3) 洗車ホースの組立 (オプション部品)



- 洗車ノズルを洗車ホース (ホースセット) にねじこんでください。

注意

運転中は洗車ノズルの先を閉じたままにしないでください。エンジンの回転速度が上がり、故障の原因になります。洗車ノズルの先を閉じた後はただちにポンプの運転を停止してください。

(2) 始業点検

始業点検

その日の作業をはじめる前に行う点検が始業点検です。始業点検を毎回行うことにより、故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検ですので、必ず実施してください。

点検内容

- 機械各部のネジがゆるんでいないか点検してください。ネジがゆるんでいると運転中に部品が落下し、故障の原因となります。
- エアクリーナの点検・清掃を行ってください。〔エンジン取扱説明書参照〕
- ポンプは水源の近くの水平な場所に、水際より離して設置してください。
- 吸水ホースはできるだけ短く、曲がりや折れのない様にするとポンプの性能が良くなります。吸水ホースの重量がポンプにかかってポンプが傾く、移動するなどの場合は、吸水ホースとポンプを固定してください。
- 吸水ホースは負圧がかかるので、つぶれないホースを使用してください。
- 吸水ホースには必ずストレーナを付けた状態で使用してください。ストレーナなしで運転すると石、ゴミ等を吸い込み故障の原因になります。
- ストレーナは完全に水源に入れ、浮き上がったり、泥に埋まらないように設置してください。

(3) 給油

危険

- 燃料は引火性の高い燃料です。必ず火気厳禁を守って取扱ってください。
- 燃料を補給するときは必ずエンジンを停止し、冷えてから行ってください。
- 燃料は金属製の缶に入れて保管、運搬してください。樹脂製タンクに入れて保管、運搬すると静電気が発生し火災の危険があります。

警告

- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれ等で完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- 燃料は注入口の口元まで入れず、所定の給油限界位置を越えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

注意

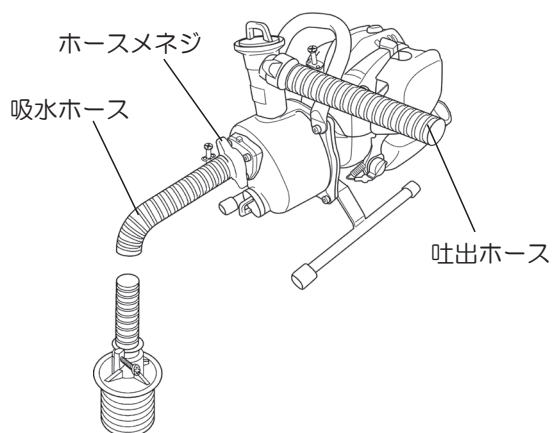
- 出荷時、エンジンオイルは入っていません。
エンジンを始動する前に必ずエンジンオイルを入れてください。
- オイルタンクにエンジンオイルを入れないで運転すると、エンジンが焼き付きます。
- 燃料は必ず自動車用ガソリンのみを使用してください。2サイクルエンジン用の混合燃料を使用するとエンジン故障の原因になります。
- 燃料を樹脂製タンク内に保管すると、樹脂の成分が燃料の中に溶け出して、エンジン故障の原因になります。

※給油(ガソリンの点検)、エンジンオイルの点検(補給)、エンジンのかけかたは、別冊のエンジン取扱説明書をご覧ください。

(4) 始動と停止方法

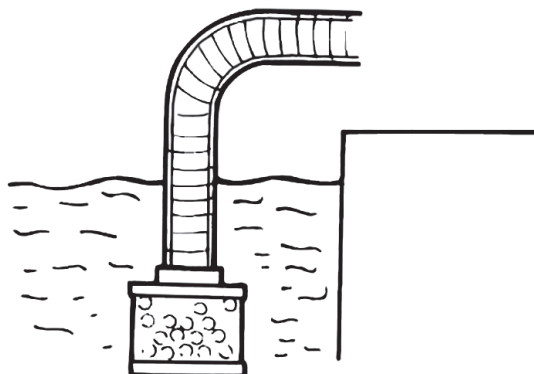
1) ポンプの準備

1. 吸水ホース・吐出ホースを本機に取り付けてください。

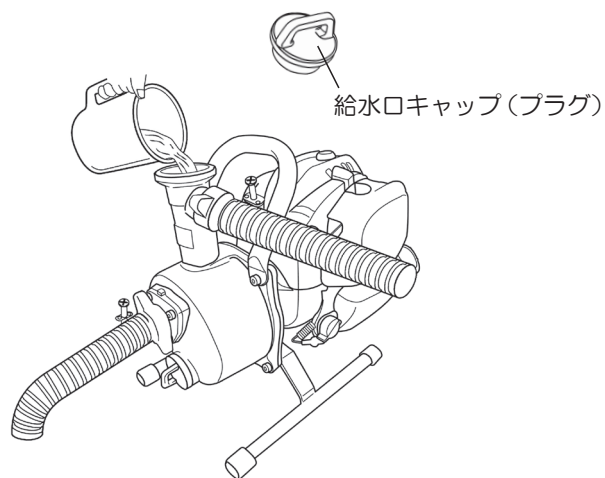


- ゴムマルパッキンを確認してください。[P9 参照]
- ホースメネジの取り付けに工具を使用しないでください。過度な締め付けは破損の原因になります。

2. 吸水ホースを水源の中に入れます。

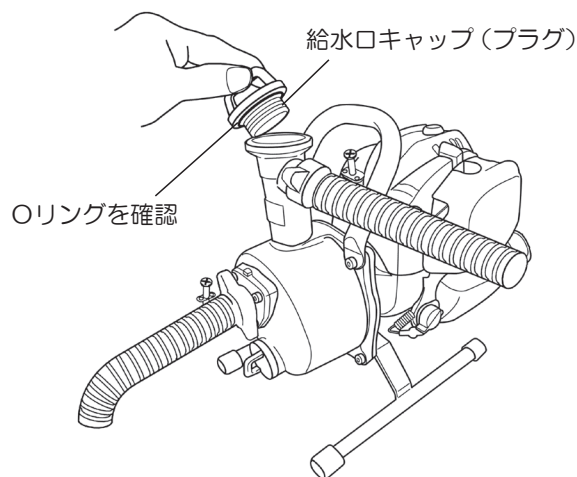


3. 給水口キャップ(プラグ)を取外し、給水口より、ポンプ内が呼び水でいっぱいになるまで給水してください。



- 給水の際、本機を揺らすと空気抜けが良くなります。

4. 給水口キャップ(プラグ)をしっかり締めてください。



注意

- エンジン始動前に必ずポンプ内に呼び水が入っていることを確認してください。
- 空運転をするとシールが損傷します。

2) エンジン始動

！ 警告

- 始動は必ず、給油した場所から 3 m 以上離れたところで行ってください。
- 排気ガスは人体に有害です。換気の悪い場所で運転しないでください。
- エンジンの周囲 1 m に壁や障害物のない平地で運転してください。

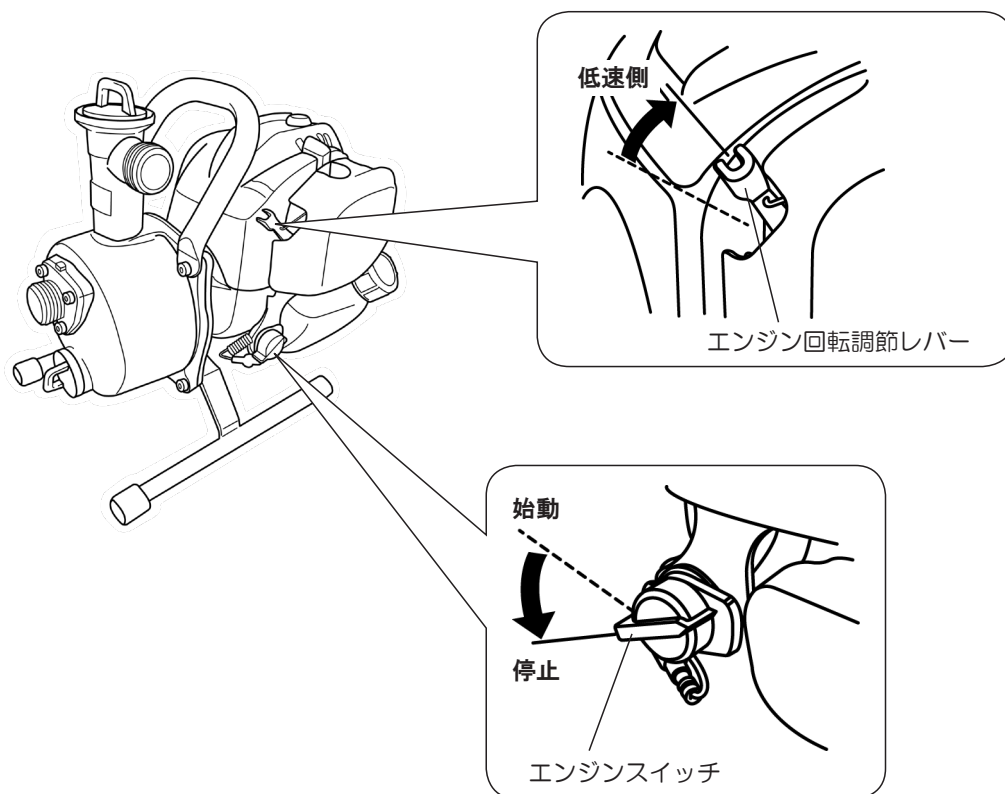
！ 注意

作業機から発する電波雑音により、無線装置が誤作動するおそれがあります。
無線装置の近くでは、運転しないでください。

※給油(ガソリンの点検)、エンジンオイルの点検(補給)、エンジンのかけかたは、別冊のエンジン取扱説明書をご覧ください。

3) エンジン停止

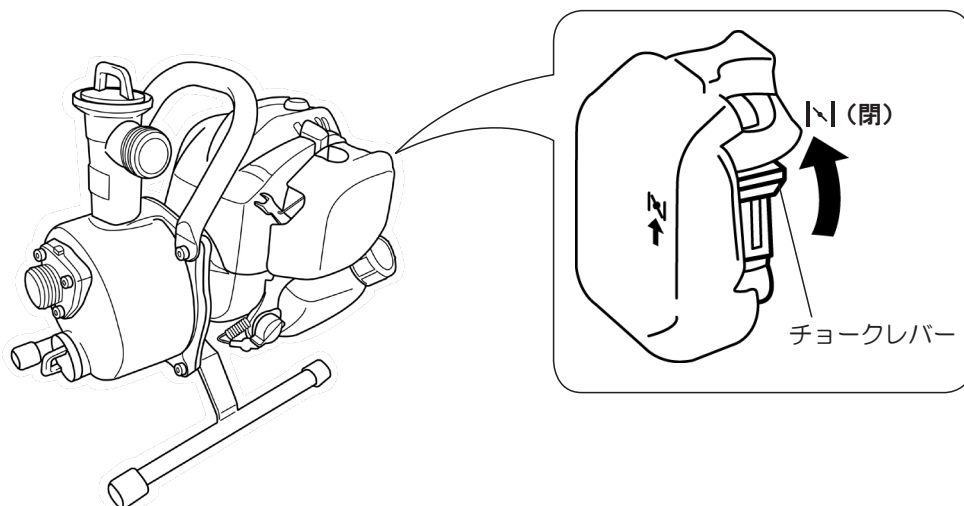
- ① エンジン回転調節レバーを、低速側いっぱい(アイドリング位置)に戻し、1 分間位冷却運転してください。冷却運転しないでエンジンを停止するとアフターファイヤーを起こし、爆発音が発生することがあります。
- ② エンジンスイッチを「OFF」にしてください。



4) 緊急停止方法

注意

- エンジンスイッチの故障で、スイッチを操作してもエンジンが停止しないときは、チョークレバーを「」（閉）の位置にしてください。エンジンは失速停止します。
- その後すぐ最寄の販売店にエンジンスイッチの修理を依頼してください。
- 修理が完了するまでは灌水ポンプを運転しないでください。



注意

高速回転で運転中に急に停止することは、エンジンに無理がかかり故障の原因になります。
緊急時以外は、スロットルレバーをアイドリング位置に戻してからエンジンを停止してください。

注意

火傷防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやトップカバー、マフラ、マフラカバー等の高温部にさわらないでください。

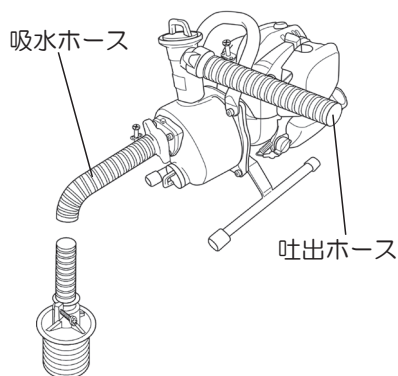
(5) 運転

⚠ 警告

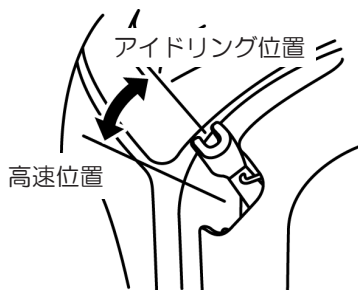
以下の項目を必ず守ってください。火災になるおそれがあります。

- 排気ガスは高温です。排気口の後方1m以内には、枯草、おがくず、衣類・布類、木造の建屋・壁などの可燃物、また人や動物に近づけないでください。いかなるものも、排気ガスをさえぎらないようにしてください。火傷、変色、焼損などの他に火災のおそれがあります。
また、マフラの排気口がふさがれると、排気ガスの高温でエンジン自体が損傷するおそれがあります。
- 作業を中断するときは、エンジンを停止してください。
- 運転中、アイドリング中のエンジンは高温です。またエンジン停止後しばらくの間も、エンジンは高温です。枯草など可燃物の近くにエンジンを置かないでください。火災のおそれがあります。

1. ポンプに異常音がないか確認してください。



2. スロットルレバーを所定の位置に合わせ運転してください。



回転を上げる場合は急激に上げず徐々に上げてください。

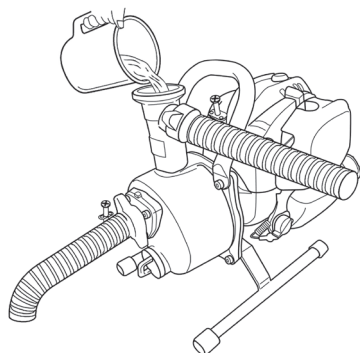
注意

スロットルレバーを高速位置で1分間位経過しても、吸水ホースに水が吸い込まれない時は、ただちにエンジンを停止してください。P19を参照して適切な処置をし、原因を取り除いてください。

注意

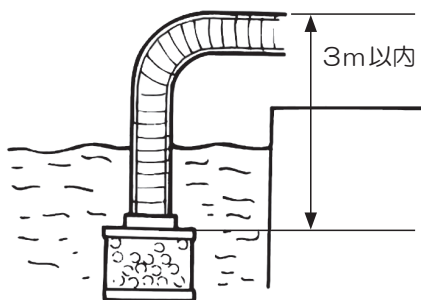
運転中は下記に注意してください。

1. 空運転厳禁
呼び水は必ず入れてください。



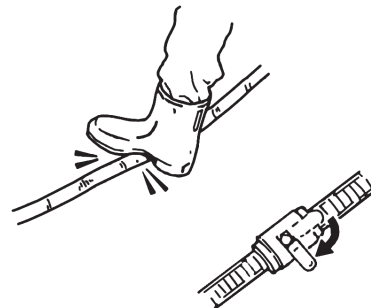
シールが損傷して故障します。

2. 吸水ホースは必ず水源の中へ。



ストレーナにゴミ等が付着したら取除いてください。ケーシング内の呼び水の水温が上昇し、シールが損傷してしまいます。

3. 吐出ホースをつぶしたり、吐出側のコックを急に締めないでください。



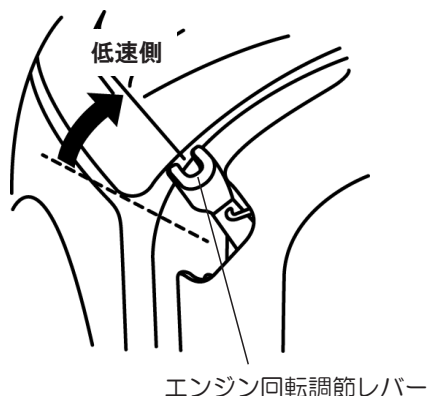
ケーシングが破損する場合があります。

注意

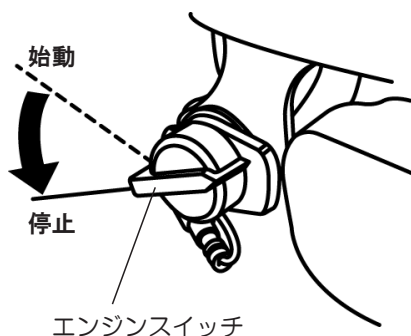
吸込揚程は吸水ホースの長さ以内（3m以内）でご使用ください。

(6) 停止

1. エンジン回転調節レバーを低速にしてください。



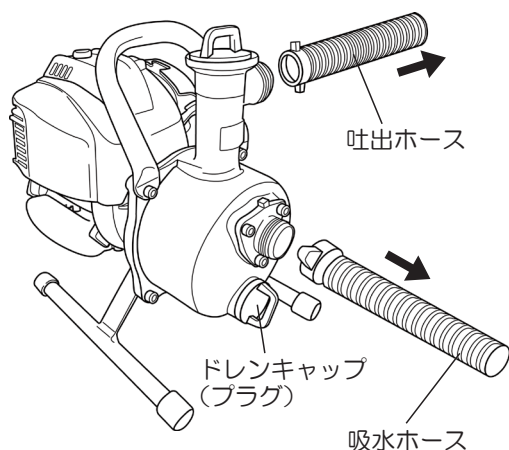
2. エンジンスイッチを「OFF」にしてください。



注意

- 高速回転で運転中に急に停止させることは、エンジンに無理がかかり故障の原因になります。緊急時以外は低速位置に戻してから停止してください。
- 万一、エンジンスイッチの故障で、スイッチを押してもエンジンが停止しないときは、チョークレバーを「」(閉)にしてエンジンを停止してください。

1. 吸水ホース・吐出ホースを本機から取外してください。



2. ドレンキャップ (プラグ) を取外しポンプ内の水抜きをしてください。



- 水抜きが終了しましたら、ドレンキャップ (プラグ) を締付けてください。

注意

- 停止後再始動する場合はケーシング内の呼び水の量を確認し、少ない場合は追加してください。
- 泥水等で運転した場合は、清水で運転しポンプ内を清掃してから停止してください。
- 凍結の恐れがある時は、使用後に必ずポンプ内の水抜きをしてください。

(7) 使用後の注意

- ポンプ内に残った水は、ドレンキャップ(プラグ)を取外して水抜きをしてください。泥水等で運転した場合は、清水で運転してポンプ内を清掃してから水抜きをしてください。
- 燃料は、全て抜き取ってください。プライマポンプを何回か押してキャブレタ内の燃料を燃料タンクに戻してください。その後もう一度、燃料タンクの燃料を燃料缶に排出してください。
- 損傷個所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品、消耗品はすべて当社指定の純正部品をご使用ください。

8. 清掃と点検・整備

！ 警告

取扱説明書に記載されていない整備・調整は、最寄の取扱店に依頼してください。

！ 注意

- 清掃・点検および整備の時は必ず本機を停止してください。
- 部品を交換する場合は、必ず当社指定の純正部品をご使用ください。
- 機械の点検・整備を行うときは、周りを整理し行ってください。また作業に関係のない人を近づけないでください。

※エンジンの点検・整備は、別冊のエンジン取扱説明書をご覧ください。

■ポンプ

- 吸水ホース、吐出ホースをポンプから外してください。
- ドレンキャップ(プラグ)を取外してポンプ内の水抜きをしてください。水抜き後、ドレンキャップ(プラグ)を元通りに取付けてください。
- 外部を布等で清掃し、整備してください。
- もし不調か異常がありましたら、その原因について処置を行ってください。
- 泥水、汚れをとり除き、オイルのしみた布できれいにみがいてサビ止めをしてください。
- 各部のネジの緩みを点検し、緩んでいる部分は適正に締付けてください。
- 各部配管は、接続口の一端を外して完全に排水してください。特に酷寒地では、バルブ配管等の凍結破損を起こすことがありますから充分注意し、各バルブは開けておいてください。

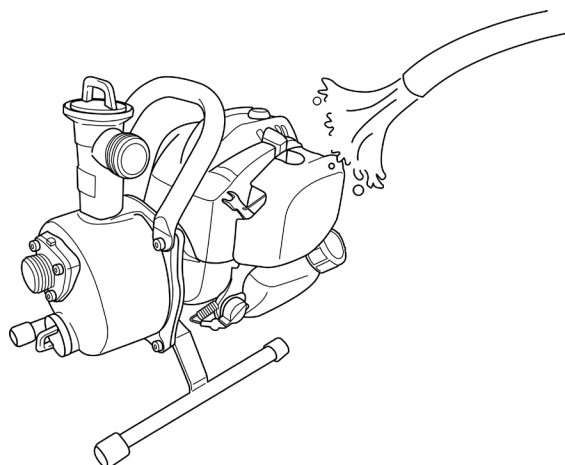
注意

水抜きは必ず行ってください。冬季凍結によりポンプを破損することがあります。

注意

本機は直接水をかけて洗わないでください。故障につながります。

禁 止



9. 長期保管

「清掃と点検・整備」[P17 参照]の整備を行ってから保管してください。

また損傷個所がある場合は必ず修理してから保管してください。

エンジンについては、別冊のエンジン取扱説明書をご覧ください。

- ①燃料がタンク内やキャブレタ内に残ったまま長期保管すると、燃料が変質してエンジンが始動できなくなります。1週間以上使用しない場合は、必ず燃料を抜き取ってください。
 - ・燃料タンク内の燃料を燃料缶に排出してください。
 - ・キャブレタのプライマポンプを燃料が出なくなるまで押して、配管通路内の燃料を燃料タンクに戻してください。
 - ・もう一度燃料タンクの燃料を燃料缶に排出してください。
 - ・ポンプに呼び水をいれて始動させ、エンジンが止まるまで運転してください。（ポンプの空運転は絶対にしないでください。）停止後、ドレンキャップ（プラグ）を取外してポンプ内の水抜きを行ってください。
- ③外面は布で清掃してください。
- ④各部を十分に清掃してください。保管はチリやホコリが付着しないように注意して、火気のない、高温や多湿にならないところに格納してください。

10. ポンプの故障診断と処置

●☆印についてはお客様がご自分で出来る点検内容です。

●☆印以外については、販売店に調整、修理を依頼してください。

状態	原因	処置	
ポンプが回らない	エンジンが正常に回らない	エンジンの故障と処置参照	☆
	インペラが錆びている	分解修理	
	インペラに異物がかんでいる	分解修理	
吸水時間が長い 全く吸水しない	空気を吸っている	吸水各部の点検および増し締め	☆
	呼び水不足	ケーシング内に呼び水を追加	☆
	メカニカルシール不良	メカニカルシール交換	
	エンジン回転不足	回転速度を上げる	☆
	吸水高さが高すぎる	水源に近い高さにセットする	☆
	吸水ホースがつぶれている	吸水ホース交換	☆
	ストレーナ、ホースのつまり	掃除する	☆
吸水量不足 吐出圧、量不足	空気を吸っている	吸水各部の点検および増し締め	☆
	エンジン回転不足	回転速度を上げる	☆
	吸水高さが高すぎる	水源に近い高さにセットする	☆
	インペラが磨耗している	交換	
	吸水ホースが細い	太くする	
	異物のかみこみ	ストレーナ点検	☆
		インペラ点検	

11. エンジンの故障診断と処置

※エンジンの故障と処置についての詳細は、エンジン取扱説明書を参照してください。

(1) まったく始動しないとき

故障原因	対 策
マフラーテールパイプがカーボンで詰まっている。	テールパイプのカーボンを取り除く。
不良燃料や水などが混入した燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を、正規の燃料に入れかえる。 [エンジン取扱説明書参照]
点火プラグにゴミが付着している。	点火プラグを清掃する。(100時間毎) [エンジン取扱説明書参照]
燃料を吸い過ぎている。	点火プラグを外し、よく拭き取り、乾燥させる。
燃料フィルタにゴミが詰まっている。	燃料フィルタを清掃する。 [エンジン取扱説明書参照]

(2) 始動するが回転が上がらなかったり、出力が十分でないとき

故障原因	対 策
チョークレバーが全開になっていない。	チョークレバーを全開にする。
スロットルレバーが充分に開いていない。	スロットルレバーを充分に開く。
エアクリーナのろ過部が詰まっている。	ろ過部を清掃する。 [エンジン取扱説明書参照]
燃料フィルタにゴミが詰まっている。	燃料フィルタを清掃する。 [エンジン取扱説明書参照]

(3) 運転中、回転が次第に下がるとき

故障原因	対 策
不良燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を、正規の燃料に入れかえる。 [エンジン取扱説明書参照]
エアクリーナのろ過部が詰まっている。	ろ過部を清掃する。 [エンジン取扱説明書参照]

上記についてお調べの上で、なおサービスが必要なときは
最寄りの販売店にご相談ください。

サービスと保証について

■保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになられた後は、大切に保管してください。

製品を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

■アフターサービスについて

○始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、ただちに適切な整備をしてください。お買い上げの販売店にご連絡ください。

○連絡していただく内容

- 機種名
- 製造番号
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったか を詳しくお話しください。

○本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、お買い上げの販売店に点検整備をご依頼ください。

このときの整備は有料となります。

■補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後8年です。

但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

本機の廃棄方法について

本機の廃棄方法については、お住まいの地域の自治体の指導に従ってください。

製品に関するお問合せなどは、まず、ご購入の販売店にご相談ください。
または、下記の全国共通の無料通話でもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120 - 898 - 114

受付時間 9:00 ～ 17:00（土、日、祝日を除く）

製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、
あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

- ① 製品型式名、製造番号
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名



株式
会社

丸山製作所

本社 / 東京都千代田区内神田 3-4-15 TEL (03)3252-2281（営・代表）〒 101-0047

この取扱説明書の部品番号は 247545

P/N. 247545-01 2104 IN